

郷土を大切に作る心の育成

—地域素材の教材化を通して—

糸満市立真壁小学校教諭 嘉手苅 友 子

内容要約

生まれ育った郷土は、自己の形成に大きな役割を果たすとともに一生にわたって大きな精神的支えとなる。完全学校週5日制によって、児童の地域社会での生活が今以上に大切になってくる。

そこで、地域の伝統行事を教材化しそのよさに気づかせる授業展開の工夫をした。郷土資料を用いた授業実践の結果、児童は今まで何気なく参加していた伝統行事に対し関心を持ち、郷土に愛着を感じ大切にしていこうという心情が芽生えてきた。

【キーワード】 地域素材 郷土資料 伝統文化 伝統行事 道徳

目 次

I テーマ設定の理由	31
II 研究仮説	31
III 研究内容	32
1 郷土を大切に作る心(郷土愛)の重要性	32
2 郷土を大切に作る心の発達段階に応じた指導	32
3 地域の特性	33
4 児童実態調査の考察	33
5 地域素材の教材化の視点	34
6 郷土資料作成の手順	35
7 郷土のよさに気づかせる工夫	36
IV 授業実践	37
1 主題名	37
2 主題設定の理由	37
3 本時の学習指導	37
4 資料分析	39
5 実践後の分析と考察	39
V 研究の成果と今後の課題	40

郷土を大切にする心の育成

—地域素材の教材化を通して—

糸満市立真壁小学校教諭 嘉手苅 友 子

I テーマ設定の理由

都市化現象が進行し、生活様式が変化している現在、隣り付き合いや地域行事に参加する割合が減り、社会連帯感が薄らいできている。地域に遊び場や自然が少なくなり、塾通い等で児童が地域に親しむ機会が減って、児童が持つ「ふるさと」意識も希薄になっている。

これからの教育のあり方として、「ゆとり」の中で自ら学び考えるなどの「生きる力」の育成を図ることが求められている。学校週五日制によって、児童の地域社会での生活が今まで以上に大切になってくる。『文部省道徳教育指導資料』では、文化や伝統を大切にする心の重要性として「文化や伝統は、地域に根ざしたものが多く、地域の人々の思いや願いが脈々と受け継がれてきたものである。児童が郷土の文化や伝統とのかかわりを深め、自分の生まれ育ったところを誇りに思い、感謝する心をもつことによって『生きる力』の根底を支える道徳的諸価値の育成を図ることができる。」と述べている。

今までの道徳の時間をふり返ると、児童にとって本当に興味深い内容の郷土資料がなく既存の資料に頼ってしまいがちであった。そのため、児童に興味や意欲を持たせて授業に参加させることができず、道徳的価値（郷土愛）を自分のものとして発展させていく思いや課題意識を持たせることができなかった。また、教師自身が地域で行われている祭りや行事などをよく知らず、地域素材を生かした郷土資料を開発することができなかった。

本校は、今年創立 120 周年を迎えた歴史ある伝統校である。学校は緑豊かな田園地帯に位置し、自然条件にも恵まれ、各字では特色ある伝統行事が年何回か行われている。児童は、地域の祭りや行事を具体的に目で見たり肌で接したりする機会が多い。しかし、進んで祭りや行事に参加する児童は少ない。理由を聞くと、祭りや行事へ参加するには何回か集まって練習をしなければならず、それが「面倒くさい、おっくうだ」ということであった。また本学級の児童が 1 学期に校区内の慰霊の塔へ参拝した時、その塔の名前や由来について初めて知ったという感想が多かった。児童は地域の祭りや行事、遺跡、歴史などに触れてはいるものの、親しみをもちそのよさを感じている子は少ないのが現状である。自分の生まれ育った郷土のよさを感じられないと、郷土に対し愛着を持たず、それに誇りをもち大切にしていこうと思う心も育たないと思う。

道徳の時間では、道徳的実践力を育てることがねらいである。中学年における郷土愛のねらいは、「郷土の文化と伝統を大切にし、郷土を愛する心をもつこと」とある。児童一人一人が郷土を愛することの意義を理解し、感じ取り、主体的に郷土を愛することができるような内面的な資質を育てることである。道徳の時間において、郷土を愛する心がしっかりはぐくまれるような学習指導を行うには、学校を含む地域の自然・歴史・文化・伝統行事などを素材とした郷土資料の開発が必要である。さらに、児童が郷土のよさに気づくためには、郷土に対する今の思いやかかわりについて考えさせる、資料の意味するもの、できた背景、それに込められた思いや願いなどについて考えさせるなどの資料活用の工夫が重要である。

そこで、道徳の授業において、地域素材を生かした郷土資料を開発し、そのよさに気づかせる活動の工夫をすれば、郷土に愛着を持ち積極的にかかわっていこうという態度を育てることができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説

道徳の授業において、地域素材を生かした郷土資料を開発し、郷土のよさに気づかせる指導の工夫をすれば、郷土を大切にし、よりよくしていこうという意欲を持つ児童が育つであろう。

Ⅲ 研究内容

1 郷土を大切にする心（郷土愛）の重要性

(1) 郷土とは

「郷土」という言葉は、「人が生まれた土地」（国語辞典：三省堂より）のことである。日常的には「人が生まれ育った所」という意味で使われている。私たちは、自らの意志で自分の生まれる所を選ぶことはできず、ある特定の地に住んでいる。そしてその土地特有の自然や長い歴史の中で培われた独自の文化、伝統、固有の人間関係の中で生活し、直接、間接に様々な影響を受けている。文化や伝統は、その土地の地理的、自然的、歴史的条件背景から、ものの見方考え方や感じ方が具体的に学問・芸術・宗教・教育・様々な制度・生活の方法などとなって表れたものである。児童は、文化や伝統、習俗に触れたり祭りや地域の行事などに参加したりする体験を重ねながら、知らず知らずのうちに生活習慣をはじめ、ものの見方や考え方を身に付けていく。自分の生まれ育った郷土は、自己の形成に大きな役割を果たすとともに、一生にわたって大きな精神的支えとなるものである。

(2) 学校教育で郷土愛を育てる必要性

新学習指導要領では総則に道德教育の目標が示されるなど、道德教育が一段と重視されている。道德教育の目標には、個性豊かな文化の創造に努めることが掲げられている。沖縄県の学校教育における指導の努力点においても、5本柱の1つとして「地域の自然・文化の重視」が示されている。文部省道德教育指導資料では、文化や伝統を大切にする心の重要性として次の3点を挙げている。

① 豊かな人間性や道德性の育成

豊かな人間性や道德性の育成は、学校だけでなく児童が生活する場全体を通して行われる。家庭・地域社会・学校における様々な経験が積み重なって児童に「生きる力」が身につく。郷土の文化や伝統を大切にする心を育てることは、このような児童が成長する土台を確かなものにしていくことでもある。

② 世界の人々から信頼される日本人の育成

これからの社会は、国際化がますます進み外国とのかかわりを必要とし外国の人々との交流も増えてくる。世界の人々から信頼される日本人となるには、国際的視野に立って異文化に対する理解を深め、異なる文化を持つ人々と協力していかなければならない。外国の文化を理解し大切にしようという心は、自国の文化を理解し大切にしようとする心が基本にあって育つものである。

③ 学校、家庭、地域社会の連携

文化や伝統の多くは、地域の人々の力によって継承、発展されてきた。それらを学校教育に取り入れれば、地域の人々との協力関係が一層充実する。文化や伝統を大切にする心を育てる教育は、地域社会の教育力の再生を図り、学校、家庭、地域社会が連携を深めるための大きな役割を持っている。

以上の点から考えて学校教育においては、地域の自然や文化、伝統に深くかかわりながらそれらを大切にする心を培い、さらによりよいものへ発展させていく力を育てていくことが大きな課題として課せられているのである。

2 郷土を大切にする心の発達段階に応じた指導

児童は、自ら意識するしないにかかわらず様々な文化や伝統の中で日常生活を送っている。したがって、郷土を大切にする心は、それぞれの児童の中に自然な形で芽生え、はぐくまれている。郷土を大切にする心は、郷土のよさを自覚するところから芽生え、郷土をよりよく発展させようとする意欲へと高まる。この心は自然の情ではあるが、道德の内容と関連付けて指導することによって、一層内面化を図ることができる。

郷土を大切にする心を育成するには、児童の発達特性を押さえ、その段階に応じた指導を充実させていく工夫が必要である。次に示す図は郷土とのかかわりに関するものであり、郷土を大切にする心をもつ児童を育てようとする内容項目と道德の時間における指導の要点である。

《低学年》郷土の文化や生活に親しみ、愛着を持つ。4-(4)

- ・ 郷土資料をもとにした学習指導や、実際に調べたこと等をもとにした学習指導、地域の人々の参加・協力による学習指導などの工夫が求められる。

《中学年》郷土の文化と伝統を大切にし、郷土を愛する心を持つ。4-(5)

- ・ 地域で実際行われた取り組みなどを素材とした郷土資料を開発し、それを利用した臨場感のある指導を行うことが効果的である。

《高学年》郷土や我が国の文化と伝統を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心を持つ。4-(7)

- ・ 郷土や国を愛する心と同時に、国際理解と親善の心が自覚されていくよう、各教科との関連を図りながら指導を工夫していくことが大切である。

図1 郷土を大切にする心の発達段階における内容項目と指導の要点

(学習指導要領解説 道徳編, 道徳教育推進資料7『文化や伝統を大切にする心を育てる』より)

3 地域の特性

糸満市は、沖縄本島の最南端に位置し、東シナ海、太平洋に面し古くから沖縄の漁業の重要拠点であった。また沖縄戦終焉の地として、摩文仁の平和記念公園を含む三和地域一帯が全国唯一の戦跡国定公園に指定されているほか、白銀堂、南山城跡、幸地腹門中墓など名勝、史跡が多い。昭和55年には旧市街地の2.5倍にも及ぶ広大な埋立地が竣工し、商業、工業の発展も目覚ましい。真壁小校区は、市中心部の商業地から離れ、市郊外に位置する。9字とも小高い丘陵を背にして、平地に農業集落を形成し、その丘陵にはグスクなどの史跡を擁している。

校区内の文化財や伝統的な行事を調べてみると、豊作や大漁など豊年を感謝し、祈願する拝みを中心とした行事が多い。各字とも規模の大小はあるものの、様々な行事が行われ受け継がれている。こうした行事は、児童が郷土の文化、伝統に実際に触れ体験できるので、教材として利用する価値がある。

4 児童実態調査の考察

地域に対する児童の実態を、「地域の自然や文化についての認識」「地域の伝統行事に対する意識」の2点に焦点を絞ってアンケートを実施した。アンケートの結果から、次のように児童の実態をまとめることができた。

- ・ 認識が高いのは、整備された建物や公園、観光地が主で、身近なものであっても整備されていない所には関心が薄い(図1)。

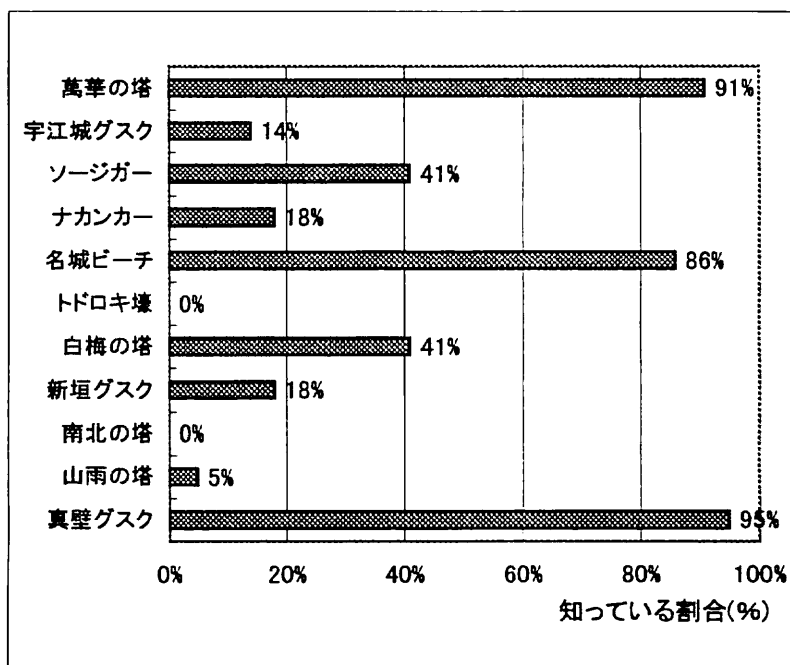


図1 学校や家の近くの自然や建物についての認識度

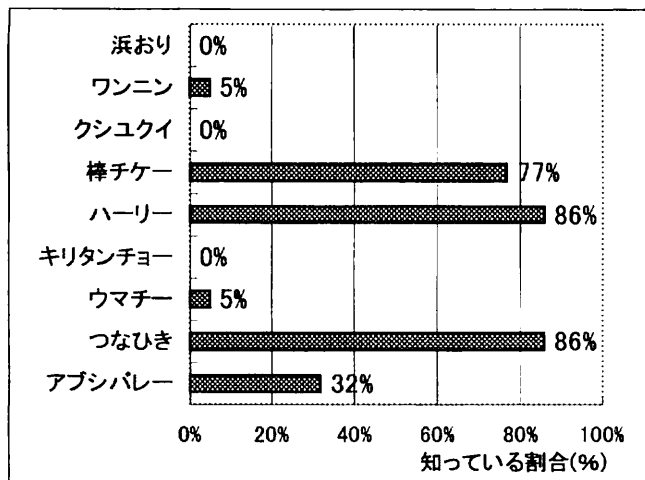


図2 字で行われている行事についての認識度

- ・ 字の行事に対する認識度は、児童が参加できる行事とそうでないのとで差が見られる。全体的に、拝みを中心とした行事はなじみが薄い(図2)。
- ・ 各字で行われている祭りや行事などには、ほとんどの児童が参加した(見たや行ったも含む)ことがある(図3)。
- ・ 祭りや行事に参加したことがあっても、行事を持つ意味について理解している児童は非常に少ない(図4)。

以上の点からも、本学級の児童は豊かな自然、文化、伝統に囲まれてはいるものの、そのよさに気づいていないというのが現状である。

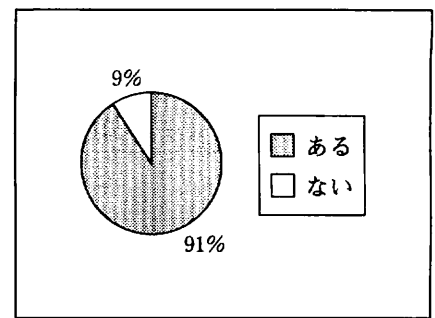


図3 字の行事への経験度

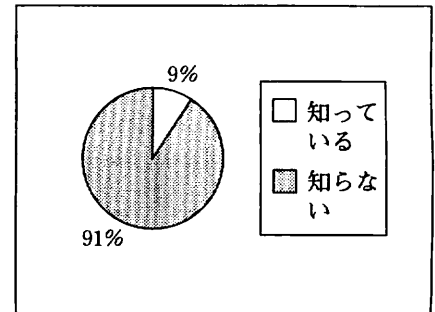


図4 行事をする理由についての認識度

5 地域素材の教材化の視点

(1) 資料に求められる性格

学習指導要領解説第4章第5節「多様な資料と活用の創意工夫」にある人間尊重の精神にかなう資料、ねらいを達成するにふさわしい資料、発達段階に応じた資料など、一般的な具備すべき要件はもちろんのことである。特に「郷土を大切にすること」を育てるための資料開発に焦点を置いて考えたとき、資料に求められる性格には次のような点が挙げられる。

- ① 文化や伝統に対する児童の感性に訴え、児童が感動を覚え、愛着を持つことのできる資料
- ② 先人の工夫や苦労などから人間としての生き方などを深く考えることのできる資料
- ③ 日常生活や体験的な活動の中の自己をふり返り、文化や伝統の意義や大切さについて意識を深める資料
- ④ 文化や伝統について体験しようとしたり調べようとしたりするなど、多様で発展的な学習活動を可能にする資料

ただし、これらの性格を一つの資料がすべて具備しているというのではなく、どれかに重点を置いている場合が多い。

(2) 題材となる内容

郷土資料として取り上げられる内容には、次のようなものが見られる。

- ① 郷土に生まれ育ち、社会の発展に貢献した人物の伝記や逸話、郷土の文化、生活、福祉の向上のために働いた先人を取り上げたもの
- ② 郷土に伝わる伝説や民話など
- ③ 郷土の文化や慣習など、郷土への愛着や誇りを育てるもの
- ④ 郷土の自然

以上のように、郷土にかかわる人物・民話・自然などで、郷土の誇ること、子々孫々に伝えておきたいことが中心になる。

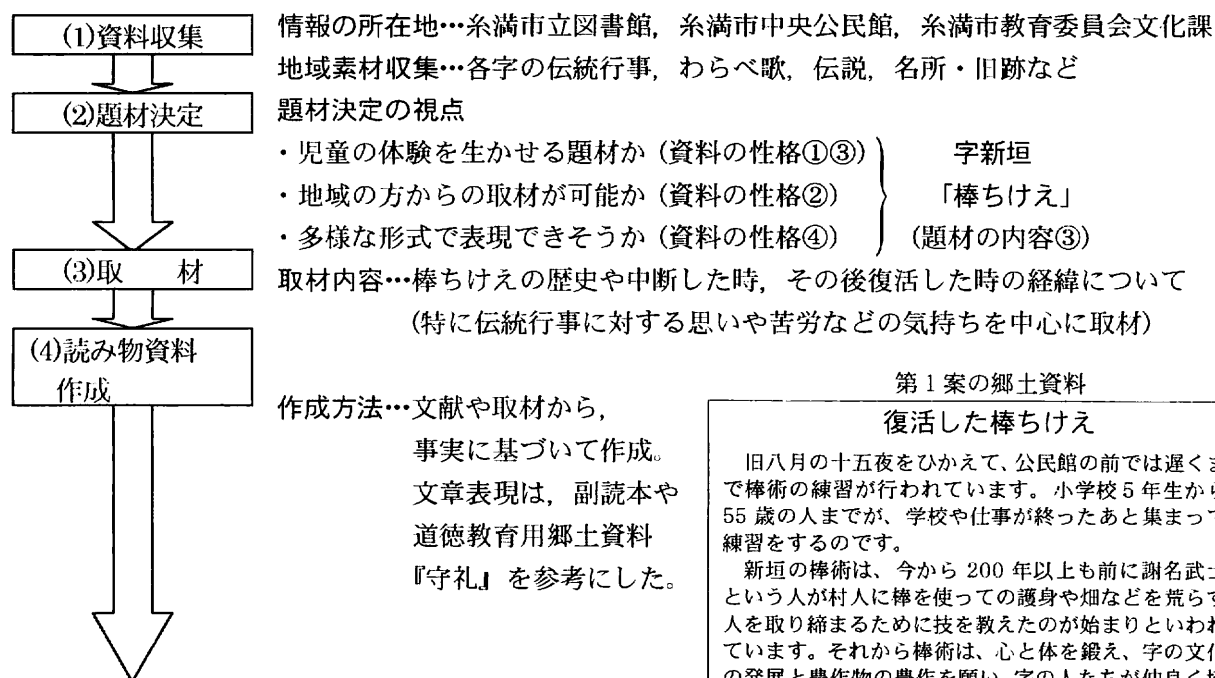
(3) 地域の素材

前述の教材化の視点に基づいて、各字の素材を収集した。

表1 各字の地域素材

字名	伝統行事・祭り	わらべ歌	伝説	名所・旧跡
真壁	ウマチー(旧2, 5月) アブシバレー(旧4月) 盆踊り(旧7月) 綱引き(旧8月)	婚礼の歌 雨乞いの歌	真壁グスクの白馬伝説 ナカンカーの大鰻伝説	真壁グスク(寺山) 遠藤石村の石碑 萬華の塔
宇江城	ウマチー(旧2, 5月) クシユクイ(4月) アブシバレー(旧4月)		東江武士の力比べ伝説 桑の精	山雨の塔
真栄平	ウマチー(旧2, 5月) クシユクイ(4月) 盆踊り(7月) 綱引き(旧8月)		王女の願い事 ビジュンガナシー	真栄平グスク イビウタキ 南北の塔 ひめゆりパーク
新垣	アブシバレー(旧5月) 盆踊り(旧7月) 十五夜棒巻棒術「棒ちけえ」(旧8月)	墓の祝いの歌	ワンニン ワンニン ウグアン 八所(ヤトル)	新垣グスク 謝名武士の墓 ソージガー 白梅の塔
伊敷	アブシバレー(4月) 綱引き(旧8月)		トドルチガマの伝説 伊敷の港	伊敷グスク 轟(とどろき)塚
名城	初御願(1月) 御願(3月) ウマチー(旧2, 5, 6月) アブシバレー(旧4月) ユッカヌヒー(ハーリー, 旧5月) 十五夜ウステーク(旧8月) チリタンチョウ(旧12月)	ハーリー歌	シロタルガニーとマナンダルー 火の神(ヒヌカン)	フェンサグスク 前城名城グスク 名城グスク 名城ビーチ
小波蔵	ウマチー(旧2, 5月)綱引き(旧8月) チリタンチョウ(旧12月)		ガンゴウの由来	チチャ山グスク
糸洲	クシユクイ(4月) シーサーモーラシ(旧8月) 十五夜綱引き(旧8月) チリタンチョウ(旧12月)		奥川(ウッカー)の大鰻伝説 牛ウトサーガマ, 命ターチーガマ ピン武士の投げた石	糸洲グスク
南波平	アブシバレー(旧4月) シーサーモーラシ(旧8月) 綱引き(旧8月)		手水の縁 シーサーのおこりについて	波平玉川 琉球ガラス村

6 郷土資料作成の手順

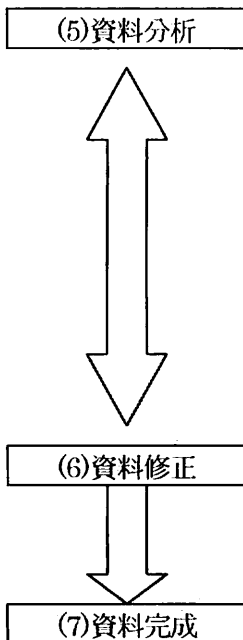


第1案の郷土資料

復活した棒ちけえ

旧八月の十五夜をひかえて、公民館の前では遅くまで棒術の練習が行われています。小学校5年生から55歳の人までが、学校や仕事が終わったあと集まって練習をするのです。

新垣の棒術は、今から200年以上も前に謝名武士という人が村人に棒を使つての護身や畑などを荒らす人を取り締まるために技を教えたのが始まりといわれています。それから棒術は、心と体を鍛え、字の文化の発展と豊作物の豊作を願い、字の人たちが仲良く協力していく行事になりました。大きな戦争があった後も、この伝統行事は受け継がれてきました。



資料分析の手順

- ・話のすじ…話の内容から、棒ちけえの歴史・中断した経緯・復活までの努力や苦勞と3つの段落に分ける。
- ・登場人物の心の動き…それぞれの場面における登場人物の心情を資料から推し量る。
- ・発問の場…登場人物の心情の分析から、ねらいとする道徳的価値について考えさせる場を決める。
- ・道徳的価値…登場人物の行為を支えている道徳的価値について考える。
- ・発問の意図…価値の分析から児童に気づかせたい・考えさせたいこと（気持ち、行動等）を考察し、発問の意図を明確にする。
- ・発問…児童の心情に訴える（心をゆさぶる）発問を組み立てる。

資料修正の視点

- ・ねらいが明確か
- ・児童にわかりやすい表現であるか
- ・事実とかけ離れていないか 等

指導講師，地域の方に資料に
目を通していただき，指導助
言を受ける。

以上のような手順で、郷土資料を作成した。(資料1)

[illegible]

復活した棒ちけえ

(資料 1 自作資料)

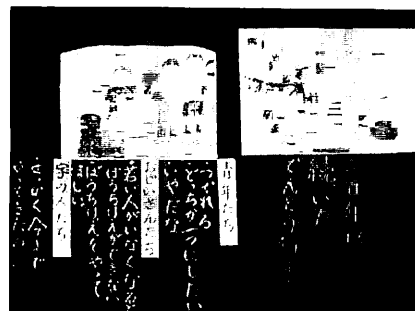
7 郷土のよさに気づかせる工夫

(1) 視覚に訴える資料提示の工夫

- ① 児童の意欲を喚起する導入のための各字行事の写真
- ② 資料の内容理解を図るためのビデオ視聴
- ③ 資料中の登場人物の気持ちを理解するためのさし絵(資料2)

(2) 展開の工夫

- ① 資料の読み聞かせを、教師の語りで行う。
- ② 場面ごとに区切って、発問する。 (資料2)
- ③ 展開後半で、郷土の伝統行事を守り続けているゲストティーチャーのお話を聞く。



(資料2 さし絵)

Ⅳ 授業実践

- 1 主題名 「大切にしよう ふるさとの伝統行事」 4 - (5) 郷土愛
資料名 「復活した棒ちけえ」(自作資料)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

本主題は、項目 4 - (5)「郷土の文化と伝統を大切にし、郷土を愛する心をもつ。」を主な内容としている。これは、低学年の「郷土の文化や生活に親しみ、愛着を持つ。」を受け、高学年の「郷土やわが国の文化と伝統を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。」へと発展するものである。

生まれ育った郷土というのは、自己の形成に大きな役割を果たすとともに生涯にわたる精神的な支えともなる。郷土を愛する心は、郷土のよさを知ることから芽生え、積極的に関わることで郷土をよりよく発展させようという意欲へと高まると考える。

3 年生になると行動範囲が広がり、様々なものに興味関心を示すようになる。本学級の児童も社会科の地域探検や生活経験を通して、自分達の住んでいる字や町(糸満市)について意識する(できる)ようになってきた。ここでは、地域の行事を守り伝えていこうとする人々の思いや願いを知ること、郷土のよさに気づかせたい。また、郷土資料を用いることで親近感を持ち、共感しながら自分に結び付けて考えさせることで、郷土を大切にしようという意欲を育てたい。

(2) 児童の実態について……(略)

(3) 指導観

児童の実態より、地域の伝統行事の歴史やなぜするのかという理由を知らせる必要があると感じた。毎日の生活の中で何気なく見過ごしているもの、当たり前にあることに視点を変えて目を向けさせることで、地域に対する新たな発見ができ、見つめ直すきっかけになると考える。地域の伝統行事「棒ちけえ」を教材化することで、児童がより資料を身近に感じ意欲を持って授業に参加できるようにさせたい。そのため「棒ちけえ」の行事を見たことがない児童のために、ビデオを見せることで資料の内容理解を図る。また、ゲストティーチャーから各字に伝わる伝統行事に人々のどんな願いや思いがあるのかということを知ること、今までの自分の体験をふり返り大切にしていこうという心情を高めたい。

授業では、字の有志たちの復活までの努力や苦労、なぜ復活させようと思ったのかと考えることで、長く受け継がれてきた伝統行事に対する思いや願いを感じ取らせたい。また書く活動を取り入れることで、地域(郷土)に対する自分の思いを膨らませ、積極的に関わる意欲が育つと考える。

(4) 資料について

本時の資料は、字新垣の伝統行事「棒ちけえ」を素材に郷土史や保存会の方からのお話を基に作成した自作資料である。字新垣の「棒ちけえ」は二百年余受け継がれてきた伝統行事であるが、戦後一時期中断した。しかし当時の村長や字の有志たちが、せつかくの伝統行事をこのまま消滅させてはいけないということで集まって話し合い、青年会の協力を得て復活した。復活までには、字の有志たちの粘り強い取り組みがあったと聞いている。現在では、毎年旧八月十五夜に行事が行われ、字の住民はもちろん他の字や市町村からの見物人も多く盛大に行われている。特に四方巻とよばれる巻は、巻頭を中心に八十名余が複雑に移動し、その姿はまさに壮観である。県下各地で行われていた棒巻だが、今ではここ新垣でしか見られないと言う。

3 本時の学習指導

- (1) ねらい 郷土の伝統文化を受け継いできた人々の姿や願いを知ることにより、郷土に関心を持ち大切にしようという心情を高める。

(2) 授業の仮説

- ① 郷土資料を用い視覚に訴える資料提示をすれば、伝統行事に対して興味関心を持つことができ、自分とのかかわりで考えることができるであろう。
- ② 教師の語りとゲストティーチャーの思いや願いを伝えることで、伝統行事に対する自分なりの考えや思いを持つことができ、郷土を大切にしていこうという心情が高まるであろう。

(3) 本時の展開

過程	学習活動・内容	児童の予想される反応	教師の働きかけ・支援
気づく(5)とらえる(10)ふかめる(15)	1, 今までに参加したことのある行事について話し合い、ビデオを見る。 発問①今までどんな行事に参加したことがありますか。 2, 資料「棒ちけえ」の内容を知り、話し合う。 (1) 長く受けつがれてきた行事がなくなってしまったときのおじいさんたちや字の人の気持ちを考える。 発問②棒ちけえの練習をする人が少なくなって行事がなくなってしまったとき、おじいさんたちや字の人たちはどんな気持ちになったでしょうか。 (2) 復活させようとした金城さんと前田さんの思いや願いを考える。 発問③どうして金城さんと前田さんは、断られてもあきらめなで復活させようと思ったと思いますか。 	・ ハーリー、つなひき、棒ちけえ、アブシバレー ・ 楽しかった。おもしろかった。疲れた。重かった。 ・ なんでやめたのかな。 ・ 今まで続けてきたのに、残念だな。 ・ やめないで。 ・ 楽しみにしていたのに。 ・ 村長に言われたから。 ・ 棒ちけえが好きだから。 ・ 昔から続いている行事をこのままなくしてはだめだから。 ・ 字の人も楽しみにしてるから。 ・ 字の人がもっと仲良くなってほしいから。 ・ 自分たちも今までやってきたから子や孫にも伝えたい。 ・ 素晴らしい伝統行事があることを教えたい。	・ 行事の写真を提示し、授業の方向づけを図る。 ・ 今までの経験から自由に発表させることでねらいに気づかせる。 ・ ビデオを見せることで、どの子にも関心を持たせる。 ・ 棒ちけえの歴史について知らせる。 ・ 資料を語り聞かせながら、児童の反応に応じて発問していく。 ・ 金城さん、前田さんの復活までの努力や苦勞を考えさせる。 ・ 答えにくそうな場合は、児童が考えを深められるような補助発問をする。 ・ なぜそう思ったかと言うことを大事にさせる。
見つめる(7)高める(8)	(3) ゲストティーチャーの話を聞く。 3, 自分の地域(字)の伝統行事に対しての思いを発表する。 		・ 実際に伝統行事に関わってきた人の話を聞くことで、郷土のよさを知り受けついでいこうという意欲を持たせる。 ・ ワークシートに書かせることで今までの自分をふり返り、郷土への思いや大切にすることを膨らませる。

(4) 評価……(略)

4 資料分析

話のすじ	登場人物の心の動き	発問の場	価値	発問の意図	発問
新垣の棒術は200年以上前に伝わり、受け継がれてきた。					
時代が進み、仕事が忙しい、陸上競技の練習もあって大変であるという理由で練習に参加する人が減りとうとう行事がなくなってしまった。	青年：忙しい・仕事がある。 ・陸上の練習もあるから疲れる。 役員会：陸上も大事だが行事を受け継いでほしい。 ・みんなが楽しみにしている行事をなくしてはだめだ。 ・青年会が参加しなければ、行事はできない。 ・仕方がない、しばらく行事を中止しよう、 字の人：行事を続けてほしい。 ・楽しみがなくなる。 ・残念だ、寂しい。 ・できるなら復活してほしい。	行事がなくなってしまった時の、役員会や字の人たちの気持ち	郷土愛 協力 連帯	「行事を取りやめてほしい」と言われた時の役員会の気持ちを考えさせる。 楽しみにしていた行事がなくなったときの字の人の気持ちを考えさせる。	行事の取りやめが決まった時、役員会や字の人はどんな気持ちになったでしょうか。 (指導案発問②) *基本発問
村長からのお願いもあって、金城さんと前田さんは行事を復活させようと決めた。二人は青年会のメンバーに呼びかけ話し合いをした。その結果、青年会も復活に協力してくれることになり、復活することができた。	金城さんと前田さん：自分の息子や孫にも棒ちけえを教えたい。 ・字のみんなで協力してもっと仲良くなりしたい。 ・先輩達から受け継いだ伝統文化だ。自分達の文化は自分達で守っていこう。 ・素晴らしい伝統行事があることを知らせて、誇りを持たせたい。 ・行事を復活することで活気のある字にしたい。	復活させようとした金城さんと前田さんの努力や苦労 あきらめずに頑張った金城さんと前田さんの気持ち	郷土愛 尊敬 誇り 努力	金城さんと前田さんが行事を復活させようとあきらめなかった気持ちを考えさせる。	金城さんと前田さんは、どうして棒ちけえを復活させようとあきらめずに頑張ったのでしょうか。 (指導案発問③) *中心発問

5 実践後の分析と考察

表2 授業後のアンケート 単位 (%)

(1) 授業仮説1〔郷土資料を用い、視覚に訴える資料提示の工夫〕の考察

身近な伝統行事の資料にほとんどの児童が興味を持って話を聞くことができた。導入の際に、各字の行事の写真を提示したときは反応が早く、「棒ちけえ」のビデオ視聴の時も全員前を向き真剣に見ていた。本

項目	とても	まあまあ	ふつう	あまり	ぜんぜん
伝統行事に興味や関心を持った	27	32	27	9	5
行事への参加意欲が高まった	36	32	18	9	5
郷土資料への関心親しみ持てた	44	23	23	5	5
郷土を大切にしたい心情が高まった	50	27	18	5	0
郷土への愛着が持てた	45	18	18	14	5

時の授業のねらいをスムーズにとらえることができた子が多かった。授業後のアンケートでは、伝統行事に対して前よりも興味や関心を持った児童は59%で「綱引きはいつから始まったか」「どうして綱引きをするのか」「ししまいやハーリーのことをもっと調べたい」等の感想があり、郷土への関心が高まったのではないかと考える。また、道徳の時間で伝統行事の学習をしたことを楽しいと答えた児童は67%であった。

郷土資料が、児童に伝統行事をより身近に感じ自分とのかかわりで考えさせることができる効果的なものであるということがわかった。

(2) 仮説2〔教師の語りによる授業展開とゲストティーチャーの活用〕の考察

検証授業では、教師による語りで資料を読み聞かせた。資料を読んで考える従来の授業展開と異なり、児童の反応（思考）に沿って話を進め発問をした。教師の声の大きさや抑揚が多少足りなかったときもあったが、話の途中にも児童のつぶやきがあり、ほとんどの児童が話に集中していた。ワークシートの自己評価でも、話の内容理解に抵抗のあった児童はいなかった。

ゲストティーチャーの話では、話の内容が授業と重なったところがあり集中力が切れた児童も中にはいたが、「みなさんも行事に進んで参加した方がいいと思います」という言葉に対し何名かうなずき、思いを感じ取った様子が伺えた。抽出児A君は、チャイムが鳴っても意欲が途切れた様子もなく、ゲストティーチャーの話が終わると笑顔で拍手をしていた。

終末のふり返りでのワークシート記入は、「字が楽しくなるような行事をやりたい」という感想が多かったが、4名ほどは「家の人に行事について聞いてみたい」「次は参加してみたい」等という感想があった。授業後のアンケートでは、自分の字が好きになった児童 63%、参加意欲が高まった児童 68%、行事や文化を大切にしたいと思った児童 77%で、郷土に愛着を持ち大切にしていこうという心情の高まりが見られた。



児童のワークシート

V 研究の成果と今後の課題

1 成果

- (1) 地域行事を教材化することによって、児童が行事と人々の願いや思いの結びつきに気づき、関心を持つようになった。
- (2) 郷土資料を用い、資料提示の仕方を工夫した授業をすることによって、児童が興味を持って授業に取り組み、郷土への親しみをもち愛着が高まった。
- (3) 教師の語りによる授業展開は資料（話）の結末がわからないので、児童が最後まで興味を持って話を聞き、授業に取り組むことができた。また、児童の反応（思考）に沿った展開ができ、児童と共に授業を作り上げることができたのがわかった。
- (4) 学校教育の中で郷土愛を育てる重要性についての理解が深まり、地域素材を基にした郷土資料作成の方法がわかった。
- (5) ゲストティーチャーからの取材や糸満市教育委員会文化課からの資料収集を通して、地域の人の教育に対する意識が高まり、学校教育との連携協力が得られた。

2 今後の課題

- (1) 伝統行事を中心にした年間指導計画の見直しと教材開発
- (2) 各教科、特別活動、総合的な学習の時間などと関連を持たせた、総合単元的な道徳学習の計画
- (3) ゲストティーチャーを活用した道徳授業の研究（人材バンクの作成、年間指導計画への位置付け等）
- (4) 指導展開の工夫（授業形態、発問、資料提示、板書、ワークシートなど）継続研究

〈主な参考文献〉

文部省『小学校学習指導要領解説 道徳編』	大蔵省印刷局	1999年
文部省『文化や伝統を大切にすることを育てる』	大蔵省印刷局	1999年
沖縄県教育委員会『道徳実践活動学習教材 高学年用』	東和印刷	2000年
明治図書道徳教育編集部 編『道徳教育 2月号, 9月号』	明治図書	2000年
糸満市字新垣 伝統棒技振興及び保存会著『棒ちけえのしおり』		1990年
糸満市教育委員会文化課著『糸満市各字の拝所・祭祀調査』		
糸満市真壁小学校期成会記念誌編集委員会『真壁小学校創立100年の歩み』	沖縄時事出版	1980年